

平成 23 年度学部卒業生フォローアップ調査結果

〈調査概要〉

目的：寄せられた意見を今後の広島大学の教育・研究の改善に活かし、優れた人材育成に繋げていく。

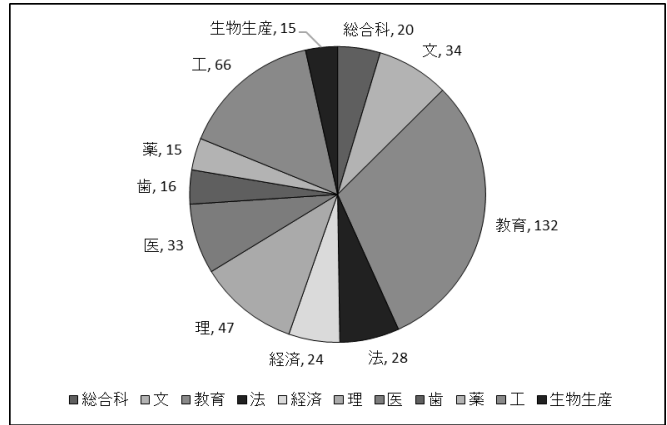
対象：平成 23 年度学部卒業生

方法：入学時の家族住所あて調査票を送付し本学あて返送。

期間：平成 29 年 12 月 25 日～平成 30 年 2 月 28 日

状況：発送数 2,487、未達数 191、回収数 430、有効数 430、回収率 17%

内訳：総合科学部 20、文学部 34、教育学部 132、法学部 28、経済学部 24、理学部 47、医学部 33、歯学部 16、薬学部 15、工学部 66、生物生産学部 15

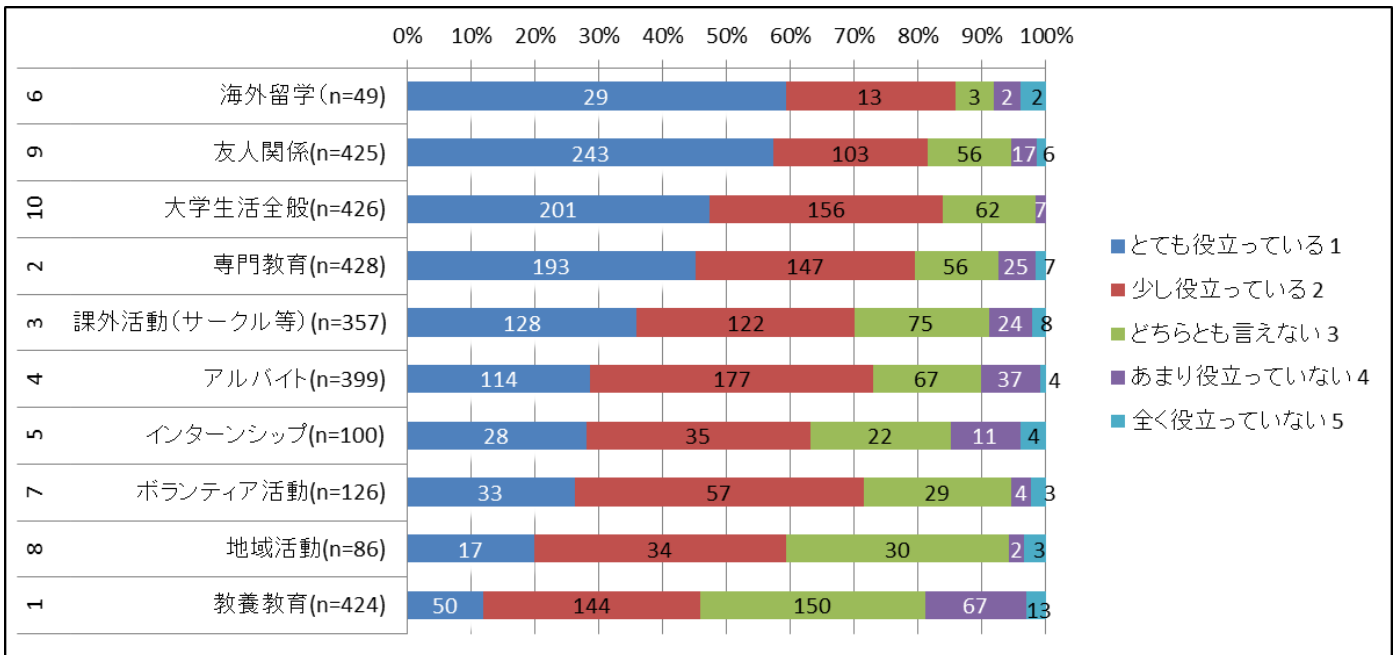


〈調査結果〉

【質問】 5. 大学生生活全般の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

1. 教養教育, 2. 専門教育, 3. 課外活動（サークル等）, 4. アルバイト, 5. インターンシップ, 6. 海外留学, 7. ボランティア活動, 8. 地域活動, 9. 友人関係, 10. 大学生生活全般,

【結果】 ※グラフ中の各項目の右にある n 数は、とても役立っている 1、少し役立っている 2、どちらとも言えない 3、あまり役立っていない 4、全く役立っていない 5 の合計回答数を表す。「該当しない」及び「無回答」は除く。



「とても役立っている」が高い順は、「6. 海外留学」、「9. 友人関係」、「10. 大学生生活全般」である。

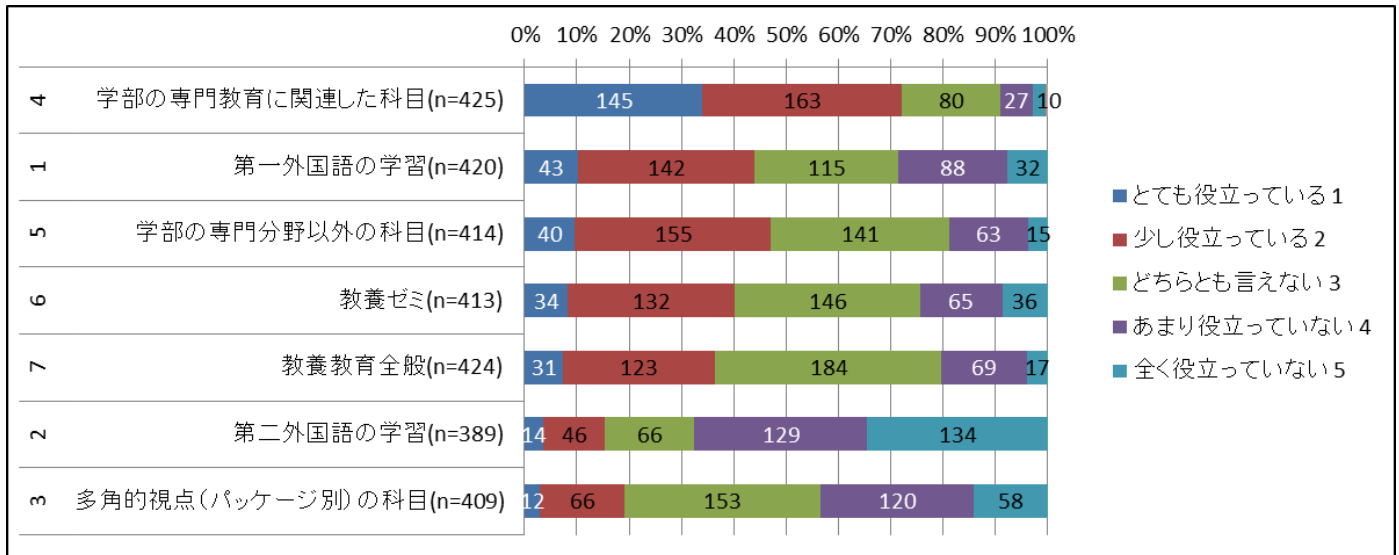
自由記述欄ではアルバイトやサークル活動などについて触れられる事が多かったが、それらも含めた総合的な経験が社会生活においての人間関係や業務遂行に役に立っている事が高評価に繋がったようだ。「2. 専門教育」においては就職先の業種により異なる意見が見られたが、大半が技術や知識が役立っているという高評価になっている。習得したものが活かさなくても、それをきっかけにコミュニケーション力が向上したり、現在の業種に変換して役立てたりしているという意見が見られた。総合的には、大学で得た「人・知識・経験」などが卒業後の私生活、就労、人間関係に大きく貢献し役立っているとと言える。

(6. 学士課程教育について)

【質問】(1) 教養教育の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

1. 第一外国語の学習, 2. 第二外国語の学習, 3. 多角的視点(パッケージ別)の科目, 4. 学部の専門教育に関連した科目, 5. 学部の専門分野以外の科目, 6. 教養ゼミ, 7. 教養教育全般

【結果】※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても役立っている1, 少し役立っている2, どちらとも言えない3, あまり役立っていない4, 全く役立っていない5の合計回答数を表す。「該当しない」及び「無回答」は除く。



「とても役立っている」が高い順は、「4. 学部の専門教育に関連した科目」, 「1. 第一外国語の学習」, 「5. 学部の専門分野以外の科目」である。

「4. 学部の専門教育」については問5の記述にもあったが、専門的な知識がそのまま就職して役に立っている事が高評価に繋がったようだ。

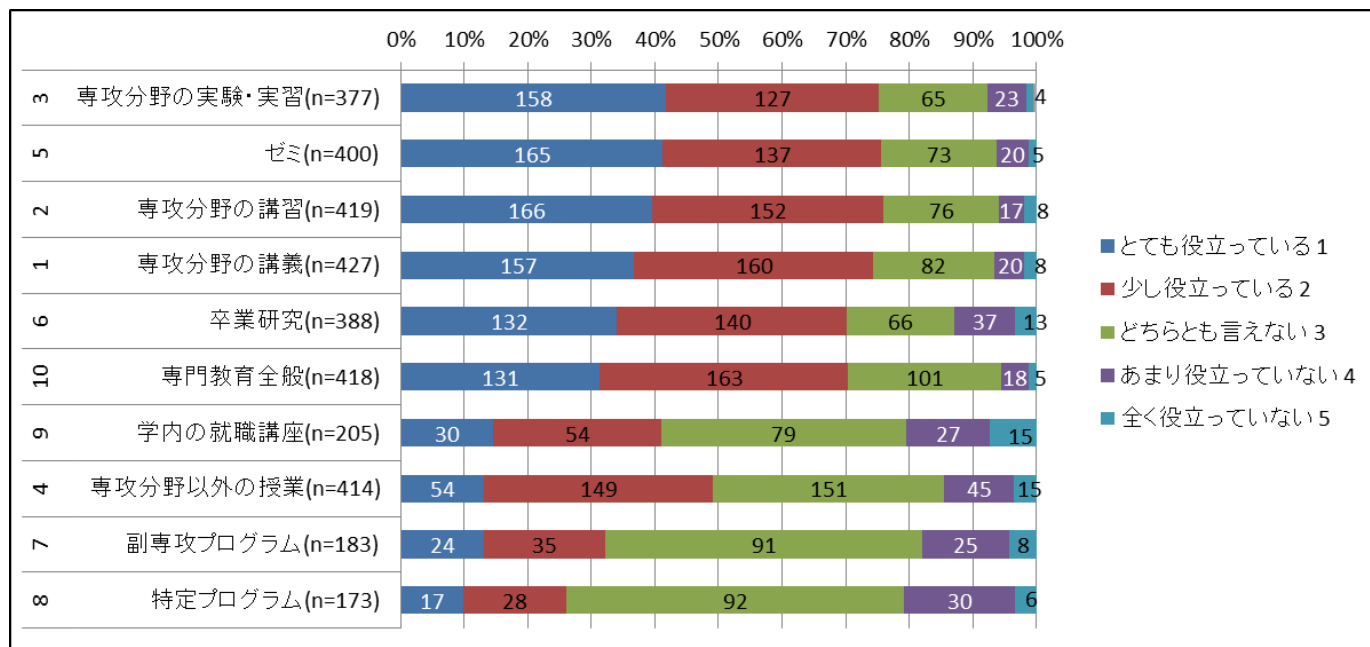
「5. 学部の専門分野以外の科目」, 「7. 教養教育全般」については、直接的には役に立つ事がなくても、コミュニケーションのきっかけになったり、幅広い知識を得た経験が間接的に役立っているという内容の意見が見られる。逆に社会に出て幅広い知識の必要性を実感し、「もっと真剣に講義を受けておけばよかった」というような後悔の意見も見られた。

「2. 第二外国語の学習」に関しては、「使う機会が無い」・「もっと真剣に学習しておけばよかった」などの意見が多く見られ、結果「役に立っていない」という評価が多くなったようだ。

【質問】(2) 専門教育の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

1. 専攻分野の講義, 2. 専攻分野の演習, 3. 専攻分野の実験・実習, 4. 専攻分野以外の授業, 5. ゼミ, 6. 卒業研究, 7. 副専攻プログラム, 8. 特定プログラム, 9. 学内の就職講座, 10. 専門教育全般

【結果】※グラフ中の各項目の右にある n 数は、とても役立っている 1, 少し役立っている 2, どちらとも言えない 3, あまり役立っていない 4, 全く役立っていない 5 の合計回答数を表す。「該当しない」及び「無回答」は除く。



「とても役立っている」が高い順は、「3. 専攻分野の実験・実習」、「5. ゼミ」、「2. 専攻分野の講習」の順である。

「1. 専攻分野の講義」と「2. 専攻分野の講習」に関しては、全体的に「役に立った」という意見が多く見られた。また、専門知識以外にも、研究発表の為に資料・論文作成作業によりパソコン操作やプレゼンソフトの技術が必然的に習得でき、それが社会でも大いに役立っているという意見が見られた。

「10. 専門教育全般」についても、学習以外の面で様々な経験が出来た事が総合的に評価され、「役に立っている」という実感をしている人が多いようだ。

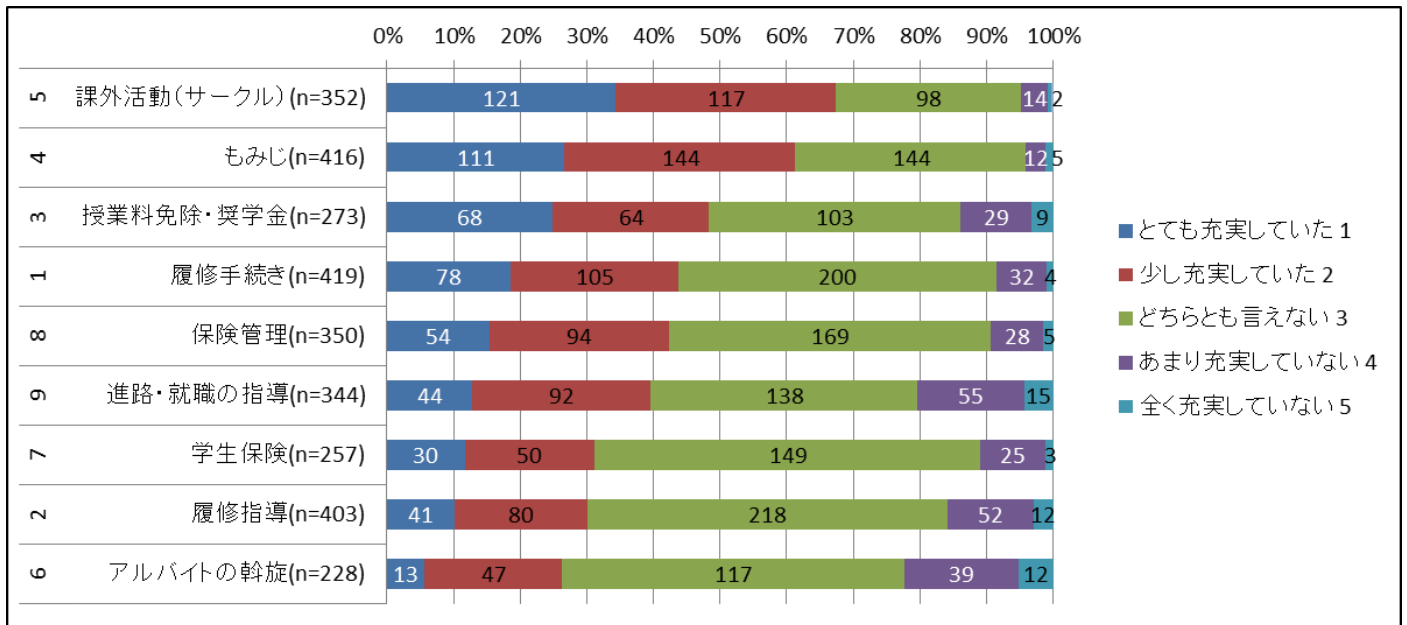
評価が低かった「7. 副専攻プログラム」「8. 特定プログラム」に関して、「7. 副専攻プログラム」「8. 特定プログラム」は意見自体が少なかったが、現在役立っていないが多角的視野を持てるという内容のものが散見された為、評価としては低いものの、社会に出て少なからず影響があるようだ。

(7. 学生支援について)

【質問】 学生対応・支援で下の項目はどの程度、充実していましたか？

1. 履修手続き, 2. 履修指導, 3. 授業料免除・奨学金, 4. もみじ, 5. 課外活動 (サークル), 6. アルバイトの斡旋, 7. 学生保険, 8. 保険管理, 9. 進路・就職の指導

【結果】 ※グラフ中の各項目の右にある n 数は、とても充実していた 1, 少し充実していた 2, どちらとも言えない 3, あまり充実していない 4, 全く充実していない 5 の合計回答数を表す。「該当しない」及び「無回答」は除く。



「とても充実していた」が高い順は、「5. 課外活動 (サークル)」、「4. もみじ」、「3. 授業料免除・奨学金」である。

「4. もみじ」に関しては詳しく内容が書かれていなかったものの、多くの学生が利用していて役立っている事がわかる。特に履修の手続きなどが充実しており現代の学生に添ったツールである事が高評価の要因だと思われる。

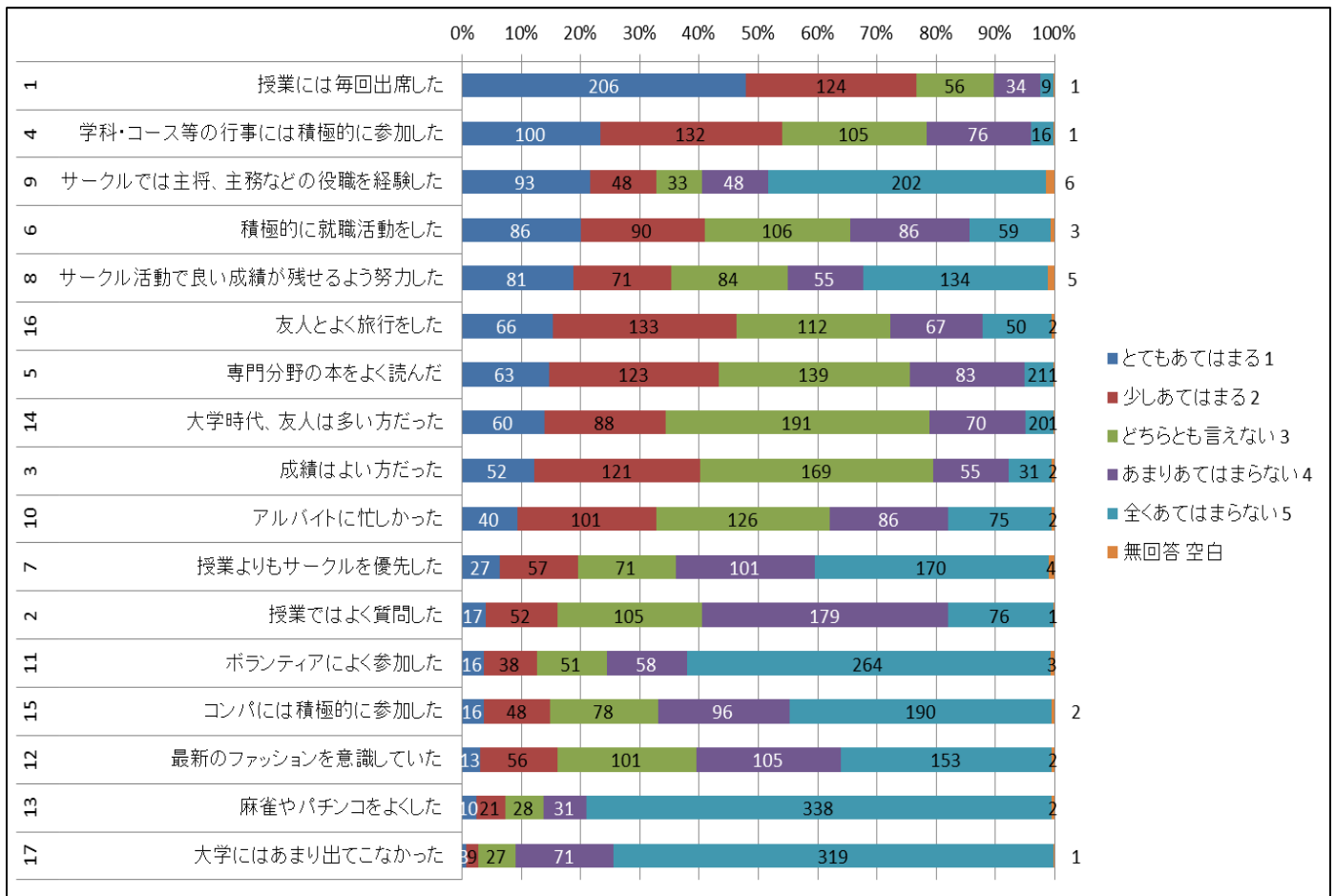
一方で、「1. 履修手続き」や「5. 課外活動 (サークル)」については、学生支援のサポートに不満足が多く見られた。

(8. 学生生活について)

【質問】(1) 下のような各項目は、学生時代のあなたにどの程度あてはまりますか？

1. 授業には毎回出席した, 2. 授業ではよく質問した, 3. 成績はよい方だった, 4. 学科・コース等の行事には積極的に参加した,
5. 専門分野の本をよく読んだ, 6. 積極的に就職活動をした, 7. 授業よりもサークルを優先した, 8. サークル活動で良い成績が残せるよう努力した, 9. サークルでは主将, 主務などの役職を経験した, 10. アルバイトに忙しかった, 11. ボランティアによく参加した, 12. 最新のファッションを意識していた, 13. 麻雀やパチンコをよくした 14. 大学時代, 友人は多い方だった, 15. コンパには積極的に参加した, 16. 友人とよく旅行をした, 17. 大学にはあまり出てこなかった

【結果】



「とてもあてはまる」が高い順は、「1. 授業には毎回出席した」、「4. 学科・コース等の行事には積極的に参加した」、「9. サークルでは主将, 主務などの役職を経験した」である。

「1. 授業には毎回出席した」が圧倒的に当てはまるという結果になった。自由記述でも学生生活の大部分を授業に当てたという記述が多かった。

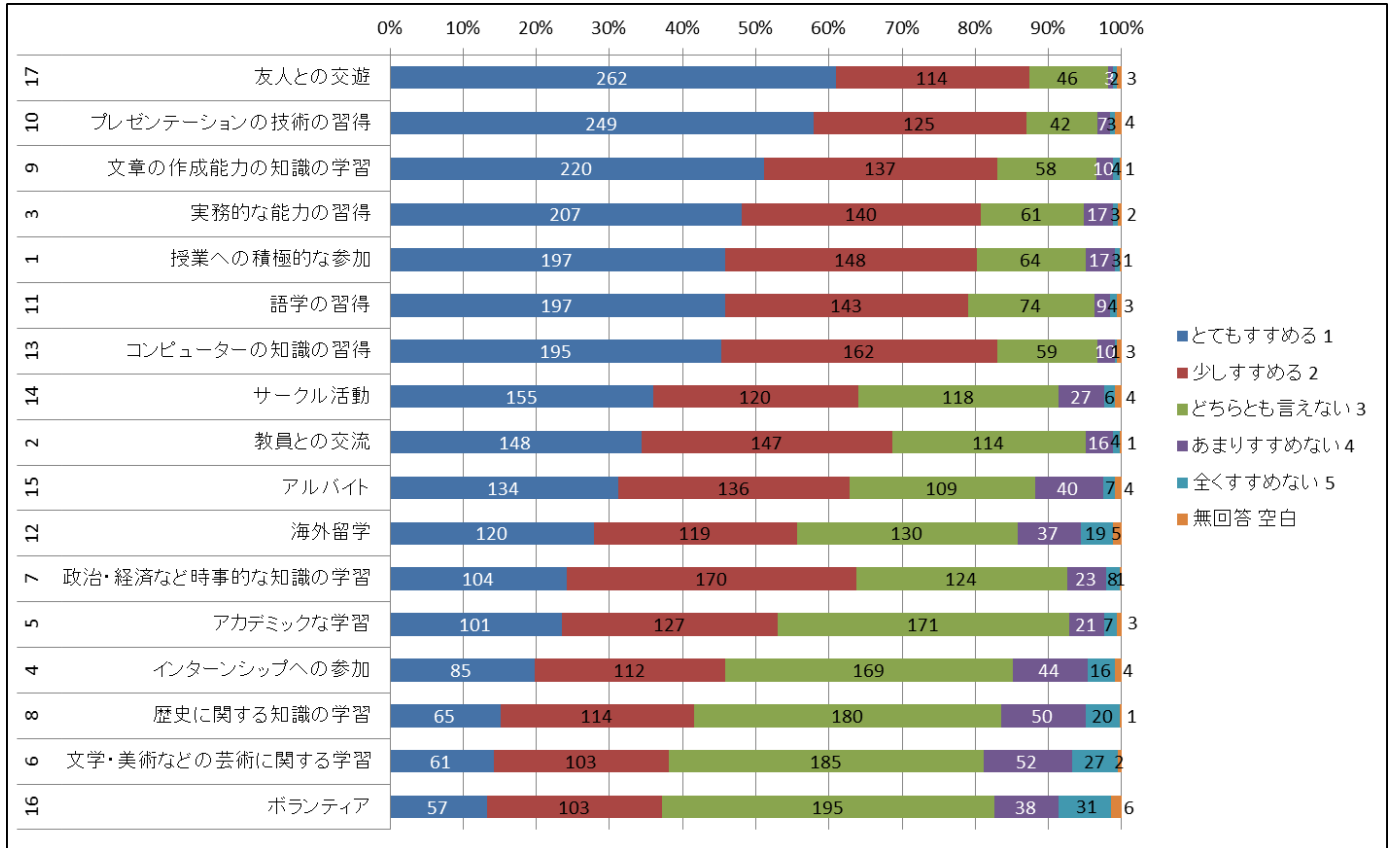
全体的には、授業・友人・アルバイトの記述が多く見られた。

平成 23 年度学部卒業生フォローアップ調査結果

【質問】(3) あなたが現在の学生にアドバイスするとしたら、次のような大学時代の学習や経験をどの程度おすすめしますか。

1. 授業への積極的な参加, 2. 教員との交流, 3. 実務的な能力の習得, 4. インターンシップへの参加, 5. アカデミックな学習, 6. 文学・美術など芸術に関する学習, 7. 政治・経済などの時事的な知識の学習, 8. 歴史に関する知識の学習, 9. 文章の作成能力の知識の学習, 10. プレゼンテーションの技術の習得, 11. 語学の習得, 12. 海外留学, 13. コンピュータの知識の習得, 14. サークル活動, 15. アルバイト, 16. ボランティア, 17. 友人との交遊

【結果】



「とてもおすすめ」が高い順は、「17. 友人との交遊」、「10. プレゼンテーションの技術の習得」、「9. 文章の作成能力の知識の学習」である。

「17. 友人との交遊」については、全体的に「人との関わり」や「様々な経験をした方がよい」と言うアドバイスが多かったが、記述内に「遊ぶ事」や「友達を大切に」と言う内容が多く見られる事から、根底には友人と活動する機会が多かった為ではないかと推測される。

また、「10. プレゼンテーションの技術の習得」に次いで「9. 文章の作成能力の知識の学習」をすすめる意見が多かったのは、社会に出てプレゼンやパソコン操作が求められており、学生時代に身につけるべき能力と考えることにつながったと推察される。